

視覚的支援が中学校外国語科の Small Talk に及ぼ

す効果

—内容の豊かさに注目して—

教育実践高度化専攻 教科指導重点コース 言語・社会科学系（英語）

川副 友暉

本研究では、中学校外国語科における Small Talk の課題である「発話内容の単調さ」および「話題の見通しの持ちにくさ」に注目し、これらを改善する授業実践を行った。中学校2年生を対象に、写真を基盤とした Pic Talk と、そこに時間制限を加えた Similar Photo を継続的に実施し、視覚的支援が発話内容に及ぼす効果を検証した。アンケート結果からは、視覚情報が話題構成の手がかりとなり、発話への心理的負担を軽減するとの回答が多く得られた。また、抽出生徒の会話分析では、上位群においては疑問文を用いた情報の引き出しが増加し、下位群においても語彙想起が促され、発話の停滞が減少するなど、内容の具体化が確認された。一方で、視覚情報を文として統合し、構造的に表現する力には依然として課題が残った。これは、視覚的支援が発話の出発点にはなるものの、文構築の方略が十分に定着していないためと考えられる。今後は、視覚的支援に加えて文構造のモデル提示や表現の再利用を促す指導を組み合わせ、より豊かなやり取りの実現を目指す。